

ローマ人への手紙 第5章 5節

「この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」

大部まえに三つ五つの大輪を咲かせた薔薇の花が終わり、枝葉をバッサリと切られた。しばらく時が経過して蕾が一つ伸び始めた。晩秋となり気温も低めのせいか、蕾がなかなか開き始めない。どのような色あいで開くのか楽しみに待つ。一週間ほど暖気が降りて来て花芽が鮮やかに咲き始める。鮮やかなオレンジ色が初めの色だ。日が変わるとピンクになる。

その頃、大輪のせいか頭を垂れるようになった。色は淡いピンクに変わった。花の重みで頭を垂れたのかと思っていたら、そうではなかった。お花の上にタオルが落ち、そのせいで垂れてしまったようである。それでもピンク色を薄めながら大輪を楽しませてくれる。

打たれ強い花だ。枝葉はしっかりとして、その色も生き生きしている。持てる力を発揮し、変わりゆく花の色を楽しませ、秋の陽光に輝いている。根元から受ける養分、水分が伸びる枝葉の隅々まで浸透し、大輪を支え、生かしている。

それだけでない、新たな蕾の兆しが二三個目につくようになった。冬に向かう希望がある。

2022年11月12日